令和4年度　美作市立勝田小学校　学校評価書　別紙

（A：目標を上回った　B：ほぼ目標どおり　C：目標を下回った）

学校経営目標等	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価 達成状況	評価	総合評価	分析・改善方策	学校関係者評価
1 学力と体力の向上	【基礎・基本の徹底】 ○朝学習、補充学習等の時間を活用し、漢字の前倒し学習やデータベース問題等を使用した学習などに取り組み、読む・書く・計算等の基礎・基本を身に付けさせる。	・基礎・基本的な事項の定着率向上を図る。 （目標値：定着確認テスト90％以上）	基礎基本定着度（90）％ 11月の学力定着状況確認テストの正答率は計算、漢字とも目標以下。・朝学習で行う漢字学習と家庭学習の内容をリンクさせ、基礎基本の反復学習ができるようにした。また、朝学習→授業→宿題→朝学習のサイクルで取り組む学年が増えている。 基礎的な音楽の学力（知識・技能）については、鍵盤ハーモニカ・リコーダーの運指・ブレス・タンギング・常時活動等で確認した。各学年に応じた身体反応や知覚・感受が見られた。 繰り返し漢字プリントやテストをすることで定着しつつあるが、分からない漢字を自分で調べたり、使い方を考えたりするまではできていない。 朝学習は、読み聞かせを継続して行い、語彙や感情が豊かになってきている。 国語・算数の授業の後半には、練習の時間や集中して書く時間を取り入れ、習熟を図った。 算数では、授業始めに毎回基礎計算のプリントを行い、速く正確に計算できるようにした。また、計算の反復練習によって、計算の処理能力が上がった。 朝学習での漢字反復練習を通して、全体的に習得率はあがっているが、時間をおいて再度実施すると習熟度が低下する。	B	B	・計算WEEKや漢字WEEKなど、それぞれの時期によって課題を設定し、基礎学力を定着させる。 ・東書データベースを活用し、書く問題に取り組んでいく。 ・朝学習では、新出漢字・漢字ミニテストのサイクルの確立（2年生以上全学年で実施） ・1年生は毎日読み聞かせを行い、語彙の確立を目指す。 ・3年生以上全児童が自分の国語辞典を持ち、すぐに辞書引きを行うことができるようにする。 ・補充学習では、学力テストの過去問題に取り組み、解き方や時間配分などを指導する。 ・算数の授業の初めに、100マス計算（＋－×）に取り組み、基礎計算力の定着を図る。 ・計算や漢字のがんばりカードを取り入れて、自己の成長を児童自身が実感できる学習コーナーをつくる。	・読める・書ける（理解できる）、計算できることが基礎であり、定着度90％は高評価と言える。引き続き児童の学習意欲の維持に期待する。 ・ChatGPTが2ヶ月で登録者数1億人を超え、パラダイムシフトが加速している。AIに対して高い質問能力を持つ人が高評価を得られることが当たり前になる。回答能力より、課題発見力や質問能力の方が今後重要な時代になるので、そのために必要な国語力に早く気づくよう指導の工夫を望みたい。 ・5年生の「割合」と「分数計算」の練習を徹底反復することが、中学校の数学、その先の高校数学を楽しく学べることになることを児童に指導してほしい。
	【家庭学習の充実】 ○「家庭学習の手引き」や「生活ばっちりカード」による予習・自主学習の取組を活用することで、家庭と連携し家庭学習の習慣化を図る。 ○宿題や自主学習への取組意欲を高められるよう工夫する。	・保護者の理解・協力を促しながら家庭学習の習慣化を図るとともに、記録カード等を用いて実施率を向上させる。	漢字や計算の基礎基本の反復学習を行ったが、児童に自学の学習メニューを配布した以降、特に手立てが打てなかったこともあり、自主学習については消極的である。 家庭学習のねらいを「学習内容の定着」と「自分で決めた目標に向かって何をしたら良いかを考える力をつける」という2つに整理した。 自主学習を出すことはできているものの、好きなこと（絵をかく）に終始している子も多く、取組内容の充実や多角化にはいたっていない。 復習を中心に、学校でも取り組んだ同じプリント（国・算）を何度も取り組むことで、定着度を図った。 週末課題に日記を出し、文を書いたり、自分の思いを書いたりする機会を増やした。 自主学習で問題の解き直しに取り組むことで、自分の課題を意識して取り組む児童が増えた。 授業で解いた問題の活用問題を作って友だちに解いてもらうなど自主学習がみんなの学びに広がることもあった。	B		・家庭学習と授業とをリンクさせ、必要観をもって取り組めるようにする。 ・生活バッチリカードの取組で、家庭への協力をお願いする。 ・学び方と学習内容の定着のねらいの共有→実践 ・「自楽メニュー」を配布し、児童の新しい案も採用したり、取り組んだメニューのチェックをしたりしながら、様々な学習の幅を児童と共に模索していく。 ・自楽ノートの「めあて・振り返り」の実施	・家庭学習に成果を感じ、より効果がもてるような方法をしっかり考えていただきたい。例えば、復習しない場合と復習した場合の「学習内容の定着度」を自己分析させてみることで、復習の効果を理解できると考える。
	【授業改善】 ○学習規律を身に付け、主体的・意欲的に学習する児童を育てるため、ICT機器の活用や特別支援教育の視点をもとに、勝田小学校の児童実態に即した授業づくりを一層進める。 ○一人1回以上の授業公開や公開授業研究会（年間2回）を実施し、全教員で授業研究を推進する。	・授業交流（授業参観1回以上）の充実。ビデオによる授業交流サポートも含む。	空き時間を活用して、月に1～2回程度授業参観を行うことができた。授業参観後は、口頭で授業づくりや学級づくりについてのふり返りを行うことができた。 日々の教材研究を怠らないことを徹底した。授業の無駄な指示・説明・発問が少なくなった結果、授業がシンプルになり、児童の思考や学習の流れがスムーズになった。 算数・国語のデジタル教科書は使用しているが、効果的に使うことは難しい。黒板に足跡が残りづらいので、動画や必要に応じて使っている。 特別支援教育の7つの視点の中の「構造化」「視覚支援」「見通しをもつ」に力を入れて授業を行った。	B		・授業を見合うことは有意義だが、時間調整が難しいので、空いているときに気軽に見合えるようにする。 ・板書写真の撮影・共有・報告（校内研修）の実施（学期に10枚以上） ・弱点克服のための授業を中心に公開する。	・授業動画を撮影し、見直せることに効果が期待できる。授業動画を見て改善点があれば改善していただきたい。 ・キーボード練習（繰り返し）の大切さを分かっているようで安心している。質問（Q）に回答（A）をキーボード入力し文字変換を正確に行い、出力（アウトプット）することが、プレゼンテーションの基礎であることに気づかせてほしい。
		・クロームブックやデジタル教科書の活用、ICT活用の充実を図る。 ・タブレットを活用した授業実践 （活用目標：週2単位時間以上） ・「授業はよくわかり、勉強をがんばりたい。」 （児童アンケート目標値：95％以上）	児童アンケート 授業はよくわかり、勉強をがんばりたい（92．5）％ 「使う事が目的にならないように」という事を意識して活用を進めた。今後も、児童が意欲的に学習に取り組めるようなICTの活用を進めていきたい。 classroomなどでは振り返りや意見をたくさん出すことに有効に活用できた。 データとして残るので、教師も児童も後で見返せるため学習のつながりもできた。 持ち帰りでのキーボード練習にも熱心に取り組む児童が多く、ストレスなく教師の質問に子どもたちは意見を書くことができた。	B		・職員間での使用格差が生まれないように、他の職員への伝達を行う。 ・子どもたち同士の会話や話し合いにつながるような仕掛けも考えていく。 ・総合的な学習の時間を含め、整理・分析の過程での活用を目指す。	
	【読書活動の充実】 ○読み取る力を育成するために、本に親しむ機会を増やす。委員会活動等を工夫するとともに、家庭とも連携して本の好きな児童を育てるような読書活動を推進する。	・各学年の読書目標を立て、朝読書や週末家族読書、長期休業中の親子読書を実施し、読書の習慣形成を図る。 （学年目標、親子読書実施率目標値：80％）	特別な読書指導は、十分できなかった。高学年児童は日常的なプラスアルファの仕事が多く、「読書」の優先順位が下がってしまった。 読書ビンゴを楽しむ低学年の姿が多く見られた。 お道具箱の中に本を置き、常に読める環境を整えた。 国語や総合の学習で本を読み、本の情報をもとに文章を書く活動を行った。	B		・児童同士の読み聞かせやタブレットを活用したブックトークなどを取り入れていく。 ・各学年の貸し出し曜日を設定する。	・開いてめくるくらいのスピードでも読書と言える。ゆっくり読めば本一冊分が記憶できるとは限らない
	【運動に親しむ環境づくり】 ○運動を好み、進んで運動に取り組む児童を育てるために、個人の記録更新を目標とさせたり、諦めないで最後までやり抜く支援をしたりすることで、心身の健全な発達育成に努める。 ○体育的行事の工夫や器械体操・水泳・陸上・持久走・なわとび運動等へ取り組む期間設定を行うことで、学校全体でバランスのとれた体力向上に取り組む。	・児童が日常的に楽しんで活動できる雰囲気・場づくりに努め、友達とともに運動や遊びに親しもうとする意欲を高める。	学級内で外に遊びにいくように声をかけたり、全員で遊ぶ企画を提案したりするなどした程度で、大きな取組はできていない。 運動は好きな児童が多いが、勝敗に拘るあまりトラブルになったり、ゲーム後に愚痴や文句をいう傾向が強かった。 休み時間や体育の時間を通じて、友だちと関わりながら取り組めるように時間や場の設定をしたことで、ゲームのルールを守りながら上手に取り組むことができる児童が増えた。	B		前学年までに行った学習も取り入れてスモールステップでの学習を進めると共に動画撮影等、ICTも効果的に活用し、友だちのアドバイスを聞いて運動への意欲を持続できるようにする。	・勝敗に拘るのはなぜか？ゲーム後に愚痴や文句を言うのはなぜか？を考えることが大切であると考える。
		・自分の目標を持ち、最後まであきらめずに真剣に取り組むことができる児童を育てる。	水泳、陸上、持久走など、学校全体として取り組むことができた。しかし、児童に記録が向上していく心地よさを感じさせるまでの指導まではできていない。 水泳、陸上、マラソン等に対して、自分の目標をもって、自分の記録を向上させようという意欲を喚起できていない。 チャレンジカードを用いたり、レベル別にコースを作ったりなど、児童が意欲的に体育の学習ができるように取り組んだ。 学習や持久走の始めに自分の目標を立てて取り組むことで、目標に向けて努力する児童が増えた。	B		水泳、陸上については、職員全体での研修を行う。	
2 豊かでたくましい心の育成	【学級集団づくり】 ○思いやりや支え合い、相互理解の大切さを伝えながら、一人一人の居場所のある学級集団づくりを進める。 ○日常的に子ども同士の思いをつなぐ指導・支援を行う。 ○道徳・人権学習の充実を図る。	・「学校に行くのが楽しい」という項目の満足度を上げる。 （児童アンケート目標値：90％）	児童アンケート 「学校が楽しい」（95％） 教師主導の学級経営ではなく、児童の思いに寄り添いながら学級経営を行うことができた。その成果として、クラス全体の雰囲気が明るくなり、学習や行事に対しても前向きに取り組める集団として成長している。 授業中や道徳の時間、トラブルがあったときなど、クラス全員で一人の気持ちを考えるようにしたり、どうすればよいかなど今後の行動について考えたりした。	A	B	i-checkや学校生活アンケートでは、疎外感を感じている児童が数名いるので、目に見える実態だけで判断せず、様々な視点から学級の様子を観察・分析し、児童にとって居心地の良い学級を作っていきたい。	・「学校が楽しい」95％は素晴らしい。
	【人間関係力の向上】 ○異学年との交流の中で、人間関係構築力を養うとともに友達関係の幅を広げさせるため、多様な縦割り班活動を計画する。また、リーダー性を養うための時と場所を意図的に設定する。	・縦割り班などの活動内容を工夫することにより、楽しさややりがいの向上を図る。	定期的に縦割り班遊びを計画することができた。最初は計画に多くの時間を要していたが、2学期後半には、ほとんどの班が10～15分程度で計画できるようになった。遊びの様子も、とても雰囲気がよく、取組として成果を上げている。 下学年のお世話をすることで、自分たちがリーダーシップを発揮することが上手くいくことにつながることに気づく子が増えた。	A		縦割り掃除で上級生、下級生の役割を確認し、掃除を一生懸命する気持ちよさを経験させていく。 3学期の土曜授業時のリーダーや6年生を送る会の運営を通してリーダー性を養っていきたい。 現リーダーの6年生の姿も認めながら、それを支える5年生の活躍の場を設定し、次のリーダーとしての力を育成していく。	・リーダーとは？　リーダーシップとは？が理解できればそれでよい。だれもがリーダーになれるわけではないことを学ぶのも人間関係力の向上である。
	【自己肯定感・社会性の育成】 ○地域学習等の多様な体験活動や特別活動などの活性化により、個々の達成感や自己肯定感を高める。 ○地域と協働した教育活動や学校支援ボランティアの招聘を積極的に進め、適切な言葉遣いや正しい礼儀を身に付けるとともに、豊かなコミュニケーション能力を育てる機会とする。	・多様な体験活動や委員会活動などで、児童同士のプラス面の関わりを増やすことで、自己肯定感や他の児童のよさを認めようとする心情を育てる。（児童アンケート、作文、日記、感想等から児童の思いを把握していく。） ・「自分にはよいところがある。」 （児童アンケート目標値：90％以上）	児童アンケート 自分にはよいところがある（71）％ 体験活動についてはほとんどできていない。しかし、帰りの会では毎日、1日の学校生活の中で見つけた、友達の良い所を相互に伝え合う時間を取ることで、児童同士のプラスの関わりは増やすことができた。 朝のあいさつ運動、衛生検査の呼びかけなど自主的な取組ができているが、次のステップへの改善の力は弱い。 主体的な活動は多くはないが、子どもたちに任せて考えさせてできることが増え、i-checkの結果や表情や発言からも子どもたちの達成感が感じられることが多くなった。 あのねちょうや、行事の振り返りなどで、自分の頑張ったことや成長を発表したり書いたりすることで、自分自身の成長を実感できるようにした。 日常的に、児童の細かな成長を言葉にしてフィードバックするようにした。 友だちの良いところみつけを行い、可視化することで友だちの良いところに目を向ける児童が増えた。 家庭に連絡帳や通信等で成長した点や努力した点を伝える事で、学校内外で認められた存在であることに気づけるようにした。	B		友だちの良いところを認めると共に、自分自身や友だちの課題も見えるようになってきているため、一人一人のよさや個性を認める雰囲気作りや道徳教育を続けていく。 SSEの取り組みを続けることで自己肯定感を高めていく。学校だけでなく家庭との連携で自己肯定感の高まりをめざす。	・「自分にはよいところがある」の割合を上げ、良いところをもっと伸ばしてほしい。 ・あいさつはされた人が賞賛してくれることがある。先手必勝という四字熟語もあり、後手を踏むよりは先手と、あいさつでは勝ちに拘ってほしい。
		・地域の方との交流などを通し、あいさつや礼儀などを身に付けるとともに、コミュニケーション能力を高める。	あいさつについては、力を入れて取り組むことができなかった。 お手本になるような児童を賞賛したり、場面ごとにあいさつの仕方を確かめたりした。	B		運営委員会のあいさつ運動の効果が見られ、自分から大きな声であいさつできる児童が増えてきた。今後も継続していく。	
	【生徒指導・教育相談の充実】 ○ふりかえりアンケート等の活用を図るとともに、個々の子どもたちに寄り添い、子どもの変化や思いを受け止めながら、トラブルの未然防止や教育相談の充実を図る。 ○いじめの積極的認知、組織的な早期解消に努める。	・「相談できる」「認めてもらえる」という満足度の向上を図る。 ・「学校には相談できる先生がいる。」 （児童アンケート目標値：90％）	児童アンケート 学校には相談できる先生がいる（70）％ アンケートだけでなく、児童の様子を観察し、時折、教育相談も行うことができた。しかし、目標値の90％には達していない。	B		生活アンケートを定期的に行ったり、学級担任やスクールカウンセラーによる教育相談も行ったりして、教育相談の充実に努めた。今後も児童との心理的距離をより縮めていく。	・相談できる先生がいることは安心できる。相談内容を克服する強さがあれば、いじめられない組織づくりも可能と考える。
3 15年間を見通した育ちと学びづくり	【15の春プロジェクトの推進】 ○保幼小中連携の強化を図り、一貫教育を視野に学びと育ちが「つながる」教育活動を積極的に推進する。 ○日常的な情報共有や相互理解の促進を図る。 ○中学校区の特別支援教育推進体制の強化を図る。	・就学前教育をふまえながら、園との連携を深める。 ・小中一貫教育に向けた取組や指導体制づくりを推進する。 ・特別支援教育部会を活性化させ、情報共有及び校園が連携した支援を進める。	中学校での学びの時間（英語）が有効に機能していないように感じる。移動の時間や授業時間の短縮など、小学校としてはデメリットがある。 小中連携の目的が共通理解されていない。 夏の保育研修を通して、今後入学してくる園児の様子を知ることができた。	B	B	中学校で学ぶよさや魅力が感じられるプロジェクトになるように、児童や生徒の発想や意見と取り入れ、児童生徒が主体となるものに見直していく必要がある。 学びの時間のある火曜日は5、6年生の時程を特別に変更する。	・学びの時間（英語）を有効に機能させるのはハードルが高いように感じる。中学校での英語学習に向けて不安なく学習が始められるように工夫してほしい。
	【発達段階に応じた力の育成】 ○「学びと育ちの連携表」を指標として、学校と家庭が連携し、各学年の発達段階に応じた力の育成を進める。	・実態に合わせて「連携表」を見直し、各項目において、低・中・高それぞれの段階に応じて育成すべき力を身につけさせる。	学びの連携表は年度当初に確認したきりで、それ以降は意識できなかった。 複雑すぎて、子どもたちにも教員にも浸透しているとは言いにくい。 「連携表」を確認しながら進めることで、現状の課題や目指すべき姿が明確になり指導しやすかった。	B		合同研修会の中で意見を出し合い、子どもの実態に合わせてプロジェクト自体を学校園の教職員が総がかりで再構築する。 あいさつ・返事・jチャイムスタートにしぼると自分自身も分かりやすく子どもたちへの取り組みもしやすい。	・学校と家庭が、「可塑性」に跳んだ少年少女であることの共通認識の基に連携表を指標とすることが望ましい。
	【キャリア教育の充実】 ○自己の夢やめあてに向かって、最後まで努力する児童を育てるため、活動ごとに具体的な目標を立てさせ、それに基づいた支援を行っていく。	・現状より少し高めになるような目標・めあてが設定できるように支援するとともに、それに向かって最後まで努力しようとする子どもを育てる。	意識して取り組むことができなかった。 学期末のキャリアパスポートの記入のみ。	B		園児と児童、児童と生徒の交流を増やし、活躍する先輩への憧れや入学への明るい希望を持てるようにする。 地域の大人（関係機関や人材）をもっと活用する。 特別活動や総合的な学習の時間を生かして、子ども達が地域へ発信（提案）する機会をつくり、よりよい地域づくりへ貢献しようという心情を育てる。	・地域の人材をもっと活用し、自己の夢やめあてに向かって、最後まで努力する児童を育てていただけることを大いに期待する。